

○岡田議長 次に、戸田議員。

〔戸田議員質問席へ〕

○戸田議員 会派自由創政の戸田隆次でございます。よろしくお願いいたします。本定例会に当たりまして、大要５点質問してまいりたいと思います。活発な議論をできればというふうに思っております。

ちょっと順番を変えさせてやってくださいませ。市長の政治姿勢について、まず初めに伺っておきたいと思います。よろしいでしょうか。

市長は、令和７年度当初予算編成方針において、最小限の経費で最大の効果を上げるとしておられます。また、さらには限られた財源を最大限有効活用するとしておりますが、そこで地域経済の活性化、子育て支援、教育環境の整備並びに防災・減災、物価対策等についての課題に必要な財源配分をするには一層の経営合理化が求められると私は思っております。そのためには継続的、固定的であるコスト削減の観点から借地問題を解決することが最重要と思慮しております。本庁舎の借地問題に係る交渉の進捗状況について、まず、伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 本庁舎の借地問題に係る交渉の進捗状況についてでございますが、これまでたび重ねて買取りの交渉を続けてきたところでありまして、地権者の方には真摯にこれに対応をいただいているところでございまして、改めて感謝を申し上げたいというふうに思うわけでございますが、このたび地権者の方から一つは貴市、これは我々本市のことを表すんですが、貴市の要望を誠実に

受け止めるとともに、本物件を売り渡す場合の要望を貴市に申し入れてるということ、それから２点目といたしましては本物件の売渡しについて現時点で合意に至るものではないが、貴市及び弊社双方が誠意を持って可能な条件等を検討してる段階にあるという話をいただいたところでございます。これ受けて、感想といたしましては合意に至る可能性というものが私は十分にあるというふうに感じておりますので、この合意に向けて引き続き条件が整い、合意形成という運びになるように交渉を続けてまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 この本庁舎の借地問題については議会でもいろいろと議論されておるところでございますが、長年の課題でありました。そういう観点からいけば、ある程度の前進が見られたのかなというふうに私は理解をしとるところでございます。そうした中で、やはりこの問題については市民も注視しておりますので、なお一層の努力を重ねられて、ある程度、今、市長さんがおっしゃったような合意形成に向けての段階に至ればというふうに思っておりますので、ひとつさらなる御努力をしていただきたいというふうに感じております。

次に、その他の借地問題についての交渉経過について伺ってきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 そのほかの借地につきましても、今、関係課が一丸となって交渉を進めているところでございます。今年度につきましては、交渉の結果、地権者に御理解をいただき、借地の解消のめ

どが立った案件が数件ございます。今後も借地の解消に向けて鋭意努力を進めていきたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 ある程度交渉経過が披露されたわけですが、ある程度解決した部分もあるということでございます。またこれは機会がありますれば議会にも報告をしていただきたいというふうに思っておるところでございます。この借地問題については、固定的、継続的なコスト減の観点からいけば、早期に今の解消をしていくのが私は求められておるというふうに思っております。引き続き、この問題について鋭意努力されて、必然的な対応していただきますように、強くこれは求めておきたいというふうに思います。

次に、米子駅目久美町線の通称名について伺ってみたいと思います。

かねてより議会において、米子駅南側のにぎわい創出に向けた機運を高める観点から、現在工事中であります米子駅目久美町線について通称名をつけてはどうかというふうに私はただしておりますけれども、その検討状況について伺っておきたいと思います。

○岡田議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 議員御指摘の市道米子駅目久美町線でございますが、この路線は米子駅南側の新たな玄関口ともなる道路でございます。これまででございますけれども、歩道の拡幅工事を行ってまいりました。1月の臨時議会でお認めをいただきました今年度の補正予算と加えまして、今議会にも来年度当初予算案ということで車道部の舗装も含めた予算を提案してございます。この予算をお認めいただいた際には本年12月頃におけます供用開

始のめどが立ったところでございます。これまでの検討に際しましては、この供用開始のタイミングを視野に入れながら、地元の皆様方と道路通称名の設定ですとか、あるいは周辺の土地利用など、意見交換を重ねてまいりました。その結果、せんだって通称名に係る地元の意向の最終確認が取れた、そういう状況でございます。以上でございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 先ほどの答弁の中で供用開始のタイミングを視野に入れながら検討を続けてきたという御答弁だったかというふうに思いますが、では、現実的にネーミングはどのような対応を考えておりますか、その辺を伺っておきたいと思えます。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 実際のネーミングでございますけれども、地元の御意向といたしましては、市道米子駅目久美町線は目久美町地内にありますこと、それからこの目久美を平仮名で書きますと、例えば天の恵みだとか恵むとか恵まれるとか、いわゆる恵みという意味も含まれる、それがよいのではないかということをおっしゃっていらっしゃいます。道路の名称につきましては、それをもってめぐみ通り、この「めぐみ」を平仮名にしためぐみ通りとしたいという御意向を伺いました。本市といたしましても、地名との親和性や分かりやすさ、あるいは親しみやすさなどの点でふさわしいネーミングだというふうに考えておきまして、新たに整備した駅南広場からの通りの通称名につきましてはめぐみ通りとしたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 この問題については令和５年の９月議会なり令和６年の１２月議会にも指摘をして、要望をしておったところでございますけども、ようやくめぐみ通りというようなネーミングがしていかれるというふうに伺いました。中では今のめぐみ通り、めぐみというのは今のいろいろな天の恵みというようなことも中には含まれておられるようでございますので、これは私はしっかりと了としていきたいなというふうに思います。

そこで今の米子駅南側については、先般の１２月議会でも質問していきましてけれども、これから今の建蔽率も６０％から８０％、容積率も２００％から３００％に上げて、規制緩和をしていくんだというふうな姿勢が示されたところでございますが、その中で、やはり南側の将来像については改めて私は伺っておきたいと思いますが、よろしくお願いします。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 米子駅南側の将来像についてでございますが、米子駅南側につきましては、令和５年度７月に完成をしましたがいなロードや、あるいは駅南広場に続きまして市道米子駅目久美町線、これ、先ほど御質問があっためぐみ通りのことでございますけども、また米子アリーナの整備を進めているところでございまして、これらの整備を生かしながら駅前のにぎわい創出ですとか新たな民間投資を誘発できるよう、駅南広場周辺の準工業地域につきまして建蔽率と容積率を本年４月中に緩和をする予定でございます。現在、駅南広場横のＪＲ西日本所有の土地につきまして公募による売却手続が進められておりまして、落札事業者への土地の引渡しに向けまして残存する鉄道施設などの処理が行われていること

から、今後、この規制緩和によりましてホテルや商業施設などの進出の動きにつながればと期待してるところでございます。また、米子駅南側の局所的なにぎわい創出にとどまらず、広く南部、場合によっては箕蚊屋方面まで含めて公共交通の充実を含め、広域的な視点で米子駅南側の利便性を向上させていきたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 ある程度、壮大な計画をしておられる、想定をされておられるということでございますので、この内容については実施していただきたいなというふうに思っておるところなんですが、そこで、質問が相前後しますけども、ネーミングに当たってやはり地元の関係者並びにインバウンド、観光者の方々にもこのめぐみ通りについて親近感なり愛着を持っていただくような、私は施策をしていく、講ずべきではないかというふうに思いますが、その辺のそこはどのように検証されておられますか。

○岡田議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 親近感を持っていただくための取組についてでございますが、めぐみ通りにつきましては、これは令和5年の7月でございますが、沿道と歩道の一部を一体的に活用できる制度が国交省のほうでございます。具体的には歩行者利便増進道路、いわゆるほこみちというものでございますが、その指定を行ったところでございます。今進めております工事の完了後におきましては、沿道事業者ですとか、あるいは新たに出店など検討される方が歩道にベンチとかテーブルなどを置いていただきながらこの制度を活用していただくことでにぎわい創出につながると、

そういったことも想定をいたしているところであります。また、駅南広場から今、整備が進められてます米子アリーナへの歩行者動線としても、これは重複すると言いますか活用は可能でございます。こういった点なども発信をしまいたいと考えております。こういったことを組み合わせながら、積み重ねながら、新たに生まれる人流を誘導しながら、より一層親しみを持ってもらえるように取り組んでいきたいというふうに考えてございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 先ほど答弁があったように通称ほこみちの指定とかいわゆる今回も通称めぐみというネーミングをされたんで、これからいろいろな、様々な施策を展開していくというような形でございますけども、やはり米子駅南北自由通路は供用開始になって、これから本当に米子駅南側のにぎわい創出は私は需要課題であるし、喫緊の課題であるというふうに思っております。先ほど市長さんの答弁がありましたけれども、やはりそういうふうなにぎわいの創出に向かってこれから様々な施策を展開していただくように、強くこれは要望しておきたいというふうに思います。

次に、中海架橋の整備促進について伺ってみたいと思います。

中海・宍道湖・大山圏域の人口規模って今、どのような状況なのか、その辺のところをまず伺っておきたいと思います。

○岡田議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 議員御指摘の中海・宍道湖・大山圏域全体の人口でございますが、令和2年の国勢調査時点での数字といたしまして、64万3,175人となっております。以上であります。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今伺いました。約64万人の人口集積をしているという状況でございますが、今の中海・宍道湖・大山圏域では日本海側でいけば今、新潟都市圏域、富山都市圏域ですか、それと金沢圏域に次いで4番目の人口集積、都市形成をなしておるわけでございますが、そういう中で、この状況を当局としてはどのように認識されておるのか、その辺をまず伺っておきたいと思います。

○岡田議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 この圏域につきましては、古くから盛んな交流が育まれてきたエリアでもございまして、県境をまたぐ形で一つの圏域として発展をしてきたところでございます。このような流れをくむ形で、議員御指摘のとおり、現在も日本海側で有数の人口規模を有すると認識をしてございます。そういった状況を踏まえまして、本市といたしましても、圏域のさらなる連携強化、一体的な発展を目指すために同圏域で市長会を構成をいたしまして、各種施策に取り組んでいるところでございます。以上であります。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 答弁の中で、本市としても圏域の連携強化とさらなる一体的な発展を目指すというような答弁の中身であったんでないかなというふうに今、理解するわけですがけれども、やはり中海・宍道湖・大山圏域の活性化並びに人流、物流の観点、円滑化、産業・観光振興並びに輸送道路としての役割を私は機能充実をしていかなければならないというふうに思っておるわけですが、そういうふうな観点から中海架橋は必要であろうというふうに私、

思っております。その辺の見解、どうでしょうか。

○岡田議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 中海架橋についてでございますが、議員御指摘のとおり、物流など経済活動はもちろんでございます。観光、さらには災害時の避難・輸送路としての機能も期待されている道路であります。私どもといたしましても、圏域のさらなる活性化、発展のため、重要な道路ネットワークであるというふうに認識をしております。以上であります。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 重要な道路のネットワークであるという答弁でございました。私もそういうふうに理解をしとるんですけれども、なかなかこの事業が進まないというには今、あるわけでございますが、そうした中で、かねてより中海架橋の建設連絡協議会が設置されて、この問題については議論をされてるように伺っておりますが、その事務の進捗状況について、現在の状況について伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 中海架橋建設連絡協議会についてでございますが、平成6年から毎年開催されておりましたが、平成13年度以降は中断されている状況でございます。事務の進捗を図るためにも、まず、中海架橋建設連絡協議会を再開する必要があることから、毎年、鳥取、島根両県に対しまして、本市及び安来市より協議の再開の要望を行っておりますところですが、再開には至っておりません。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 平成13年からこの協議会は開催されておられないというような答弁でございましたけれども、関連ですけど、答えられたらいいです、その要因はどのように分析されておられますか。

○岡田議長 いいですか。

伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 特に島根県のほうでございますけれども、山陰道のミッシングリンク、そちらのほうに重きを置かれておられるという話を伺っておりまして、なかなか島根県のほうは乗ってこないという状況がうかがえるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 島根県側にそういうようなテーブルになかなかつきにくいという背景があるのかなと推察するわけですが、そうした中で、やはり米子ー境港間の高規格道路についてはどんどん進んで、私もこれは大歓迎なんですけれども、しかし、一方、この中海架橋の事務というのは私は停滞感が否めない、停滞しするというふうに思うわけですが、その置き去り感がすごく私は感じるわけですが、その辺のどこ、当局はどのように見解をお持ちですか。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 米子ー境港間の高規格道路につきましては、本市と境港市を結ぶとともに、全国の高速道路網、国幹道路の一部となる道路ネットワークを形成する道路でございまして、また一方、中海架橋につきましては、本市と安来市の都市間を結ぶ道路であると認識しとるところでございます。それぞれ重要な道路と

して認識しておるところでございますが、機能や目的が異なる道路ということで考えてございます。現在は米子一境港間の高規格道路の議論が進んでおるところでございますが、中海架橋につきましては、まず、中海架橋建設連絡協議会が再開されることが必要でございまして、鳥取、島根両県に働きかけていきたいと思っておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 答弁をずっと伺いますと、当局もこの中海架橋の必要性はすごく思っておられる。しかしながら、その事務は進まない。それは島根県の事情、背景があるようだというような形なんですけれども、やはり今の交通ネットワークとしても必要であるし、先ほどから私も申し上げてます、人流、物流の観点並びに避難道路の有効性というふうな観点からいけば、この中海架橋、私は必要不可欠だというふうに思っておるわけですが、そのほうのところで、今の進まない要因を今、披瀝されたんですけども、必要性だということをもっとアピールをして、この事務を私は進めていくべきではないかと思いますが、その辺のどこ、どのように感じておられますか。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 必要性につきまして、やはり渋滞緩和ですとか、あるいは物流、人流の円滑化、産業振興、あるいは観光振興などの効果と併せまして、議員御指摘のとおり、災害発生時の避難路としての役割、そして物資の輸送路としての機能、こうしたものが期待されるわけございまして、我々本市といたしましては重要な路線であるというふうに認識をしております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 ちょっと視点を変えますけれども、この中海架橋建設連絡協議会のほかに米子市と安来市との連絡会、いわゆる勉強会の組織ですか、そういうふうなものがあったというふうに私は理解しておりますけど、その活動状況はどのような状況ですか。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 米子市と安来市の連絡会でございますが、平成21年度から毎年、事務レベルでの協議を行っておりまして、意見交換や情報共有を行っておるところでございます。今年度につきましても、先月、2月に行ったところでございますが、その中で、中海架橋建設連絡協議会の再開につきまして、鳥取、島根両県知事に対しまして継続して働きかけていくことを確認しているところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 本事務の推進に当たっては、先ほどもありましたように、連絡協議会というのが設置されておって、そこで事務を進めていくんだというふうに私は理解しておるんですけども、先ほど答弁があったかと思えますけれども、この開催状況については現状、どうなんでしょうか、その辺のどこ伺っておきたいと思えます。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 中海架橋建設連絡協議会は平成6年に設立されたと申しあげましたけども、平成13年まで両市、両県、事務レベルによる幹事会を毎年開催いたしまして、計6回検討協議等が行われていた状況でございます。平成13年度以降は山陰道

開通による周辺道路の交通量の変化や国、県の財政支出の実現化の懸念等から緊急性、必要性を再度検討する必要があるとされ、連絡協議会の開催が一時中断されており、現在まで再開には至っていない状況でございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 13年以降は開催されておらないという状況下なんですけども、これも関連なんですけど、その辺の状況、先ほど答弁があったように、島根県のテーブルになかなかつきにくい背景があるという理解なんですけど、あれ、私は13年から約、もう二十何年間、この連絡協議会が開催されていないというのはいかななものかと私、思いますよ。やはり市民も安来市と米子市と、そういう連絡会がありながら、働きかけていくという答弁の繰り返しなんですけれども、もうちょっとプッシュを強くして、この連絡協議会を開催すべきと私は思うんですが、市長さん、その辺のそこはどうなんでしょうか。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 ちょっとこれまでのやり方をどういうふうに変えていくのかという御質問かと思えます。これまでもたび重ねて両県知事には要望、要請は出してきたところでございますし、また鳥取県の平井知事におかれてはこの課題に対しましては積極的に何度か動かれた過去があったというふうに認識をしております。やはりそこは島根県側の特に西部エリアの山陰道のミッシングリンクの解消というのを優先したいという御意向が非常に大きいのだろうなというふうに認識はしてございます。この中海架橋の事業を推進するための中海架橋建設連絡協議会の開催、まずはこれが

必要であろうというふうに考えておりますので、引き続き鳥取、島根の両県に対して要望はしていきたいというふうに考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 先に答弁いただきましたけど、やはり中海架橋建設連絡協議会、やっぱりこれはすごく開催はされてない、約30年間近くも開催されてない、私はいかがなものかなと思っております。私たちも議員連盟を立ち上げて、その活動に一生懸命尽力をしとるわけですが、まずその連絡協議会を動かすことが私は最優先課題であろうというふうに認識しております。もっと、先ほども市長さんから答弁がありましたように、やはりこの中海架橋というのは人流、物流並びに避難道路、今、原発の問題もいろいろと議論、多角的にしとるわけですが、今、台風災害とか、そういうふうな避難道路にも大きく寄与するのではないかなと私は理解をしておるところなんですが、今、答弁が繰り返しになっておりますけれども、もっと前向きに両県知事に対して積極的にアピールなりプッシュをしていただければというふうに私は思っております。市長さんも事あるごとにそういうふうなプッシュをされておられるというふうに私は理解しておりますけども、さらなるそういうふうな開催に向けての誘導を私は図っていただければというふうに、これは強く要望しておきたいと思います。

次に、道の駅について質問してまいりたいというふうに思います。

鳥取県内における道の駅の整備状況について、まず伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 鳥取県内の道の駅は17施設ございまして、そのうち16施設が稼働中でございます。山陰自動車道北条道路沿いに位置いたします北栄町の「道の駅北条公園」につきましては現在、再整備に伴い休業中で、令和7年4月下旬に再オープンの予定と伺っておるところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 約17駅ですか、17の施設が県内には存在をしておるという答弁でございましたが、そこで米子一境港間の高速道路、先ほども触れましたけれども、これは大歓迎で、どうしてもやっていただかないといけない事業だと私は認識しておりますが、そういう中で、一方、やはり本市が素通り感があるんじゃないかという私は提言をしておるわけですが、その辺のところ、どのように分析されておられますか、伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 観光などで米子を訪れた方が本市を素通りしないような施策は重要であると考えておるところでございます。今後、高規格道路の事業化へ進展する際には新たな道路ネットワークによる人流、物流の変化も想定しながら、インターチェンジ周辺の土地の利活用をはじめとする本市全体の振興策を検討することが必要であると考えておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 答弁の中で新たな道路ネットワークによる人流、物流の変化を想定していくんだというふうな御答弁でなかったかなというふうに思いますが、そういう中で、私はやはりそういうふ

うな素通り感を払拭するような施策をこれから講じていかなければならないなというふうには思っとるわけなんです、そうした中で、本市の観光地、例えば米子城跡並びに彫刻ロードとか、そういうふうなところに観光していただいて、米子市内のホテルに宿泊していただく、ひいては今の皆生温泉に宿泊していただくというような、私は仕掛けづくりが必要でなかろうかというふうに思いますが、その辺のところはどのように分析されておられますか。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 本市は、現在、皆生温泉の明かりや海岸遊歩道の空間整備などのまちづくり、米子城跡の三の丸広場や登城路の整備などを進め、現在の観光資源の魅力向上に取り組んでございます。本市の魅力を旅に出る前の来訪者へ向けての情報発信、そして誘客を図り、皆生温泉や米子駅周辺などへの宿泊につなげる取組を進めておるところでございます。今後、高規格道路の事業化に併せ、インターチェンジ周辺の土地の利活用をはじめとする本市全体の振興策を検討する中で、道の駅の整備につきましても振興策の一つとして検討することになると考えてございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 旅に出る前の来訪者へ情報発信し、誘客を図り、皆生温泉や米子駅周辺などの宿泊につなげていくんだという御答弁の内容だったと思いますが、私は今現在、そういう施策は弱いというふうに感じております。やはり本市の魅力アップをもっと図られて、今の観光客に対しても米子市のアピールをもっと潜在化

させて、私、していく必要があるというふうに思いますが、米子城跡、先ほどありました水鳥公園、彫刻ロード、そういうのを本当に対外的にもっともっとPRすべきだと思いますよ。その辺のところで、本市の魅力アップを図るというような施策はどのように講じておられますか、その辺のところを伺っておきたいと思います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 先ほど御答弁させていただきました皆生温泉や米子城跡の環境整備に加えまして、今後ですけれども、和文文化体験や食などを観光客の皆様に楽しんでもらえるよう、民間事業者の観光コンテンツ造成や磨き上げへの支援、そしてそれらの情報発信を行いまして、そういった取組を通じ、本市の新たな魅力創出や誘客促進を図ることとしてございます。本市へ観光誘客を図るためには、議員からの御指摘をいただきましたとおり、魅力の向上が必要であり、引き続き観光客の満足度を高める環境整備や観光資源の磨き上げなどに努めながら、本市を周遊していただくルートのPRといった仕掛けによりまして、滞在時間の延長や宿泊日数を上げていきたいとの考えでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 答弁があったんですが、私、今の聞き取りのときに議論をしたんですけれども、コンテンツを造成していくんだというふうな先ほど御答弁があったんですが、どのようなコンテンツを考えておられるんですか、その辺のところ答えられれば答えたいと思います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 先ほど御答弁させていただきましたとおり、具体的なというよりは民間事業者のお考えの部分を御支援していきたいというようなところで、その民間事業者との意見交換の中で先ほどお伝えしたような和文化を体験していただくようなもの、それと併せてやはり旅に出ていただくときに楽しんでもいただくものが食が一つ、なるではないかということで、飲食店への支援というところをつなげていきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 この聞き取りの中でいろいろと議論があったんですけども、いわゆるコンテンツ、いろいろとこの議会でも議論があったんですけども、サバしゃぶとか牛骨ラーメン、パフェを売り込んでいる、米子市の観光者に対しての売出しをしていくんだというような答弁があったんですけど、私はそれも大事なこと、従来から引き継いでいくことは大事であろうというふうに理解しておるんですけども、やはり新たなコンテンツを見いだしていくのも一つ、私たちには求められているのではないかというふうに聞き取りの中で議論させていただきました。やはりそういうふうな姿勢が問われているのではないかな、私はそういうふうな観点も持ち合わせて、これからそういうふうなコンテンツの魅力アップに資するような具体的なものも今後取り組んでいただきたいと思いますとおるところでございます。これ、答弁は要りませんが、そういうふうな考え方を私は持っております。

そうした中で、道の駅においては、地元の農産物の販売等についても大きく寄与しておるというように私は各道の駅の経営者か

らも仄聞するわけですが、第一次産業の活性化の観点からいけば、道の駅を整備して、農産物の販売についても大きく貢献をしていくんだという私はスタンスでおりますけども、その辺のところはどのように考えておられますか。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 他市において、道の駅を整備し、その一部を農産物の直売所として利用されている事例が多くあることは承知しておるところでございます。第一次産業の活性化促進についても重要な施策であることは認識しているところでございます。今後、高規格道路の事業化と併せて、本市全体の振興策として検討されるものとして考えております。その際、道の駅の整備につきましては、振興策の一つとして検討されるものと考えておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 振興策の一つとして検討されるというような答弁があったんですけど、これまた後ほど市長さんとも議論をしたいんですが、道の駅西いなば気楽里について、私は現地にも出向き、いろいろと調整をしてみましたけれども、この気楽里は敷地面積が約1万9,000平方メートル、総事業費18億円、合併特例債を活用したというふうに伺っておるんですが、建物は約1,600平方メートル、その中でレストラン、トイレ、コンビニエンスストア、あとは備蓄倉庫、それと足湯というのが整備されて、結構活性化をしておったというふうに私は理解しております。そうした中で、やはりこういうふうな観光客の誘導と地元の活性化の観点からいけば、この気楽里をモデルとしたような道の駅を想定す

べきでないかなというふうに私は理解しておりますが、その辺のところはどのように考えておられますか、伺っておきたいと思います。

○岡田議長　伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長　観光客の誘導や地場産業の活性化の発展は本市としても重要な取組として認識しておりまして、今後、高規格道路の事業化と併せて本市全体の振興策として検討されるものと考えておるところでございます。その際、道の駅の整備につきましては振興策の一つとして検討されるものとして考えておるところでございます。道の駅西いなば気楽里は、中心市街地を離れた郊外における道の駅の整備の事例の一つとして参考になるものとして考えておるところでございます。以上です。

○岡田議長　戸田議員。

○戸田議員　そこで気楽里の事例を披露させていただいて、答弁をいただいたんですが、そうした中で、今の視点を変えますと、米子インター周辺については今、開発がすごく進んでまして、目まぐるしく変貌をしております。そうした中で、隣接の村のところの開発がすごく進んで、地区計画ですかね、それが進んで、いろいろな企業が進出しておるわけでございますけれども、そういうふうな都市間競争に打ち勝つためにはこういう道の駅を起爆剤として取り組むべきであろうかというふうに思いますが、その辺の見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長　伊木市長。

○伊木市長　議員御指摘のとおり、米子インター周辺につきましては、山陰道と、それから米子道の結節点でありますので、交通

面から見ましても好立地でありまして、近隣には既に民間の大規模なお土産の販売施設ですとか、あるいは商業施設、そしてコンビニエンスストアなどがございます。また、産業用地としての利用も進んでおりまして、今後もニーズが高くなるものと考えております。今後、米子一境港間の高規格道路が事業化へ進展する際に他市のインターチェンジ周辺の状況なども参考にしつつ、米子インターチェンジ周辺の土地の利活用をはじめとする本市全体の振興策、これを検討していくことが必要であると、そのように考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 そういうふうな振興策を取り組んでいくんだというふうな形、検討しますということなんですけども、そこでやはり私は米子一境港間、先ほどぐらいからずっと申し上げておりますように、これは必ずやっていただかないといけない事業でありますし、ある程度具現化が進んできたのかなというところで大変喜んでおるところでございしますが、そういう中で、やはり先ほど来から申し上げておりますように、その事業が完成すれば、本市が素通り感が感じられるのではないかというふうに私は理解しとるわけですけれども、そういう中で、改めて道の駅を整備されて、今の対策を講ずべきでないかと思いますが、市長さんの見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 今後、米子一境港間の高規格道路が事業化へ進展する際には高規格道路の事業化と併せまして新たな道路ネットワークによる人流、物流の変化、これもいろいろと想定をしながら、

インターチェンジ周辺の土地の利活用をはじめとする本市全体の振興策を検討することが必要であると、そのように考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 前向きな答弁いただきましたけど、くどくなりますけれども、やはり本市の素通り感は払拭すべく方策を私は講じていかなければならない、そういうような観点からいけば、多角的に、多面的な方策を私は改めて講ずべきというふうに思いますが、改めて市長さんの見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 やはり米子をいかに目的地にしてもらえるかということが重要だというふうに考えてございます。そのためにも、市内観光地への誘導やリピーターを増やす取組など、こうしたものも併せてやっていかなければならないと感じております。道の駅につきましては、今後、高規格道路の事業化と併せまして、インターチェンジ周辺の土地の利活用をはじめとする本市全体の振興策を検討する中で振興策の一つとして検討することになるものと考えてございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今の米子一境港間の高速道路は整備されていく。その中で、一方、やっぱり素通り感は払拭せねばなりませんので、多種多様な方策を私は今後講じていただきたい、この辺のところを強く要望して、この質問は終わりたいと思います。

次に、3歳未満児の保育料の無償化について議論してみたいというふうに思います。

保育料の体系、国・県の動向について、まず、伺っておきたい
と思います。

○岡田議長 瀬尻こども総本部長。

○瀬尻こども総本部長 保育料の体系、国・県の動向についてで
ございますが、国の制度におきまして、3歳児以上の子どもの保
育料は無償化となっており、また3歳児未満の子どもにつきまし
ては基本的には保育料がかかりますが、住民税非課税世帯につき
ましては無償化となっております。加えまして、住民税課税世帯
につきましても、同一世帯の複数の子どもが同時に在園する場合
の第3子以降は無償、第2子は2分の1にするなどの減免が行わ
れております。県及び本市では、国の制度よりも多子世帯に対し
ましてさらに軽減を図っており、同時在園かどうかに関係なく、
第3子以降の保育料を無償化、また低所得世帯で同時在園の場合
の第2子につきましても無償化しております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 答弁の中で、多子世帯については国の制度よりも手
厚い補助を行っておるというふうな理解でよろしいでしょうか。

○岡田議長 瀬尻こども総本部長。

○瀬尻こども総本部長 はい、おっしゃるとおりでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 聞き取りのときにこれも議論したんですが、その内
容というのは先ほど答弁された内容と理解してよろしいでしょ
うか。

○岡田議長 瀬尻こども総本部長。

○瀬尻こども総本部長 はい、先ほど、議員おっしゃりますとお

り、答弁した内容と考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 国の第2、第3子以降は、第2子は2分の1にするなどの減免が行われてる、国の制度よりも多子世帯に対してさらに低減化を行っておるというような内容だったと思いますが、その辺でまた議論したいと思いますが、本市における3歳未満のお子さんの人数はどれぐらいですか、その辺、伺っておきたいと思っています。

○岡田議長 瀬尻こども総本部長。

○瀬尻こども総本部長 市内の3歳児未満の人数についてでございますが、令和5年度末時点で4,379人でございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 4,379人ということでございますけども、今、在園してる3歳未満児の方々の無償化をした場合にはどれだけの財源が必要でしょうか、その辺のどこ、想定されておられますか。

○岡田議長 瀬尻こども総本部長。

○瀬尻こども総本部長 3歳児未満を無償化にした場合の費用についてでございますが、令和5年度の在園児の利用者負担額の実績から算定いたしますと、年間約4億円となります。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今の3歳未満児を無償化した場合、約4億円を要するという、見込まれるということなんですが、そこで今の子を産み、育てていただく少子化対策から考えれば、また物価高騰による負担軽減の観点から保育料を無償化するというお考えはないですか、その辺のどこ伺っておきたいと思っています。

○岡田議長 瀬尻こども総本部長。

○瀬尻こども総本部長 保育料の無償化についてでございますが、保育料につきましては所得に応じた応分の負担をするものでございまして、保育料の軽減につきましては基本的には国の責任におきまして全国的に実施されるべきものであると考えております。その考えを基本としつつ、本市では令和元年に3歳児以上の保育料が無償化となった際にその無償化となった状況や県内他市の保育料の状況などを勘案いたしまして、3歳児未満の保育料の額につきまして見直しを行い、負担軽減を図ったところでございます。また、第3子以降の完全無償化など、多子世帯に対しまして県・市では国の制度よりもさらに負担軽減を図っているところでございます。一方で、現状におきまして3歳児未満を無償化した場合には入園希望に対し保育の受皿、保育士の確保が追いつかないことが想定されること、また多額の財源を要することから、3歳児未満へのさらなる保育料の無償化につきましては現時点では考えておりません。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 ちょっと視点を変えますけれども、ふるさと納税基金の現在高は幾らぐらいでしょうか、そこを伺っておきたいと思っております。

○岡田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 令和5年度末で申し上げますと約32億3,500万円、同じく令和6年度末、これは見込みでございますけれども、約38億円と見込んでいるところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 約３８億円の基金が積み上がっておるというような状況でございますが、先ほど来から答弁がありましたように、３歳以上の無償化になったときには独自の施策で国・県よりも手厚い、手厚いという制度を設けたというふうな答弁であったというふうに思いますが、そこでふるさと納税基金を活用して時限的に、時限的にいいですか、ふるさと納税基金を時限的に保育料の無償化に充当するというような施策は考えられませんか、その辺のところ伺っておきたいと思います。

○岡田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 がいなよなご応援基金を財源といたしました事業実施に当たりましては、その当該基金が恒久的な財源ではないことから、寄附の際に指定された使途に沿って時限的なものを中心として有効に活用しているところでございます。保育料無償化につきましては、財源確保を含め、国の責任において検討されるべきものと考えておりまして、国から具体的な方向性が示されていない現時点におきましては、がいなよなご応援基金の時限的な活用を想定することは困難ではないかと考えているところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 国がそう示されないから時限的な活用を想定することは困難というふうに伺っておるんですが、私は、先ほど言いましたように、第３子以降が無償化になったときには独自の今の本市としてはさらなる手厚い補助をしてきたというふうな答弁であったというふうに思いますが、やはり私はこのゼロ歳から２歳児の方々のふるさと納税基金を活用して、今の無償化を図っていく

一つの米子市の施策でもいいんじゃないかと理解しとるんですが、そのことを時限的に選択肢の一つだと考えるわけです。その辺のそこを伺っておきたいと思います。

○岡田議長 瀬尻こども総本部長。

○瀬尻こども総本部長 時限的な無償化についてでございますが、保育料の無償化は施策の性質上、また実際の問題といたしまして、一時的な保育需要の増減に対応するため、受皿を増減させることの難しさから一定の継続性を持って行われる必要がある施策であり、仮に実施する場合には受皿確保等の体制整備に加え、恒久的な財源の確保を前提とする必要があると考えております。先ほど総務部長が答弁いたしましたとおり、現時点で国において3歳児未満の無償化に係る具体的な見通しがない状況下におきましては、がいなよなご応援基金を時限的に活用して、保育料の無償化をすることは現在、想定しておりません。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 恒久的財源でないから、そういう措置をしないという見解なのかなと思いますが、私は恒久的に一番対応していただきたいというのが私の一つの考え方なんですが、しかしながら、今の状況等を鑑みれば、時限的に例えば1か年、2か年の無償化をしていくのは一つの考え方ではないかなということを御提言をさせていただいてとるんですけれども、今のそういうふうな中で、よなごっこ未来計画についてちょっと読みましたけれども、「こどもを生み育てることに希望が持て、こども・若者が心豊かにのびのびと成長・自立できるまち、よなご」を基本理念としております。こども総本部の設置、こども総合相談窓口の運営等、大い

に私は評価しておりますけれども、やはり市民の負担軽減化も求められているのは事実だというふうに思います。ふるさと納税基金を活用して、時限的に3歳未満の保育料の無償化を求めていきたいと思いますが、改めて見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 子育て世帯への負担軽減ということにつきましては、我々としたしましても大変重要なテーマであると認識をしております。これにつきましては、保育料の軽減のほか子どもの医療費の無償化ですとか、あるいは出産・子育て応援交付金に対するJ-Coin Payのポイント上乘せなど各種取組を行っております。今後もこれを取り組んでいく所存でございます。

また、3歳児未満の保育料の無償化に関しましては、保育士の不足ですとか、あるいは受皿としての課題がある状況下におきましては、まずは受皿の確保などの体制整備が先決であると認識をしております。先ほど部長が答弁を申し上げましたとおり、国などから恒久的な財源の具体的な見通しが無い現状におきましては、時限的でありましても、この3歳児未満の保育料を無償化するということは政策的にどうだという判断も必要でありますし、現時点においては考えておりませんが、低年齢の子どもの保育につきましては、今後も国における検討状況なども注視しながら、在宅育児との兼ね合いなども含めまして、支援の在り方について引き続き考えていく必要があると考えております。

今後につきましても、妊娠期から出産・子育てまで一貫して御相談に応じ、そして様々なニーズに即した支援につなぐ伴走型の相談支援の実施など様々な手段で子育てをサポートして、経済的

な支援と併せまして子どもを産み、育てることに希望が持てるようなまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 さきの国会の中でもいろいろと動きがあるようございまして、今の自民党、公明党、日本維新の会の合意の中で、3党合意の中で情報を得ていましたけれども、ゼロ歳、2歳児を含む幼児教育・保育の支援、さらなる負担軽減支援の拡充について、地方の実情等を踏まえ、令和8年度から実施するというような3党合意がなされたとは聞いたしております。そういうふうな状況の中で、国・県と連動しながらこの施策を進める必要があるわけですが、やはり本市独自の施策展開も私はあってもしかるべきではないかというふうに思います。といいますのが、やはり若い世代とお話しする機会が相当あります。安心してなかなか暮らしていけない、生活に追われて、日々苦難が続いておりますというふうなお声もいただきます。そういうふうな観点からいけば、先ほど市長から答弁があったように、J-Coinの制度とかギフト券の対応とか、そういうふうな物価高騰対策も施策展開されておられますけれども、やはり視点を変えれば、直接負担の軽減化を図っていくというふうな観点も私は持ち合わせていかなければならないのではないかなというふうに思っております。特にこの子育て世代というのは若者世代で、やはり、先ほども申しましたように、日々の暮らしに困窮をなしておるような状況下も推察するところでございます。このような、令和8年度からそういうふうな国の動きがあるようですけれども、独自の米子市の判断もあってもしかるべきではないかというふうに私は思うとこ

ろでございまして、3歳未満の無償化についてはぜひとも前向きに検討していただきたいというふうに思います。

以上で私の質問終わります。ありがとうございました。